



成年の新春定例会

明けましておめでとうございます

手稲郷土史研究会 会長 茂内 義雄

今年度も残すところ3か月となりましたので、四月からの事業を振り返ってみたいと思います。先ずは、かつての手稲町時代の歴史的遺産を西区の手稲記念館からお借りすることができたということです。手稲町合併50年という節目に、14万人の手稲区民にお借りした資料を見てもらえたのです。この事業のもつ意味合いは大きいものがあったろうと思っています。



ご承知のとおり、手稲区にはこうした資料館的施設は皆無です。今回手稲駅自由通路あいくるに「里帰り」させていただいた陳列展示資料は、手稲町役場時代の歴史的な「お宝」です。本来あるべき場で、常時住民の目にふれ触らせなければなりません。残念ながら今は西区の施設ということもありまして、手稲のみなさんは「行ったことがない」というのが大方の声のようです。今ここで今日に至った経過報告はさておくとしても、当然半世紀という時間的経過が立ちはだかっています。これをどのように解釈するかでしょう。

今回私たち手稲郷土史研究会は、手稲記念館から初めて館外への資料の持ち出しが許され、初めて手稲区民に見てもらえたということです。特に小中学生に学習してもらえたのではないかと思います。この事業の大テーマ「ふるさと手稲ヒストリー、郷土の歴史を子どもたちにそして未来に！」へ向けての一步が踏み出せた気がします。今後なお一層地道な活動を通して私たちの会が発足目的「手稲に資料館実現」への歩みを続けて参りましょう。会員の皆様の一層のご理解をお願いします。新年のご挨拶は以上の一点のみとさせていただきました。

次回定例会

30年2月14日(水)
18時15分
日本人の源流を探る
後藤 崇和会員
区民センター
3F 視聴覚室

成 29 年 12 月 13 日(水)定例会講演要旨

紅葉山砂丘の魅力

手稲郷土史研究会会員 釣本 峰雄

1. 歴史

800 万年前、石狩平野は海の底で水中火砕流が流れ込み海底扇状地が形成されていた。200 万年前、手稲山や藻岩山や茨戸海山が噴火し、東西のプレートが押し合って浅い海になる。13 万年前、扇状地が広がり、野幌丘陵や馬追丘陵なども形成される。4 万年前、支笏湖が噴火して大火砕流で渡島と道東部が繋がる。6 千年前、温暖化で海水面が上り、古石狩湾と紅



葉山砂丘の基になる砂州が形成される。その後海面が下がり砂丘が出来て、縄文人が住むようになる。

その後旧石狩市の背骨のように伸びる 1 km×20 kmの内陸砂丘になる。表土の下は風で集まった細かい砂と粗い砂や小石の層がある。砂丘には縄文からアイヌ時代までの生活痕跡があり、明治以降砂丘は雑木林のまま、低地を畑や水田にした。戦後駐留軍将校のマッコードが砂丘内の谷口遺跡など道内の遺跡を発掘調査し、1960年にスミソニアンに論文を提出した。米軍は石狩湾に演習地を要求したが、漁民が反対したので町長はかつて屯田兵の演習場だった紅葉山砂丘を代替地として提案した。結局米軍は使わず、それが昭和40年以降に自衛隊の演習地になった。

2007年3月砂丘の風資料館の石狩ファイルが砂丘を紹介する。2016年9月PJM(石狩市内の地域資源を発掘する市民団体)の4名が砂丘を車で下見。10月釣本が演習地内の紅葉山を確認し、PJMの3名が砂丘内の農家を取材。11月PJMが紅葉山砂丘を石狩遺産に認定。2017年5月砂丘内の谷口遺跡の英文論文を和訳して発行する。10月PJMの5名が砂丘を徒歩で下見し、手稲郷土史研究会の5名が紅葉山など砂丘の要所を車で回る。11月PJMと市民約15名が砂丘を徒歩で見学。来年以降は砂丘と発寒川の関連を調べ、土器や竪穴住居を作って縄文の生活を体験し、演習地の返還と砂丘を自然公園にして資料館を建設するよう行政に要望していきたい。

2. 地理

生振地区には生振墓地やピトイが残っている。

花川東地区には標高11mの砂山オタベリヶ丘(篠路140年史によると砂の崖の意)、谷口農場の51跡や保育園そばの残存砂丘等魅力的な地域が点在している。

花川北地区には道内で5番目に低い17.6mの紅葉山やパワースポットとし有名な屯田墓地や国内最古級の漁労施設のエリアを発掘した49号跡等がある。花川地区石狩市の記念保護樹木クリの二本木のある了恵寺や花川南防風林や33号遺跡などがある。

前田の新川右岸地区は以前砂山と呼ばれていたが、ここに手稲式土器が出土した手稲1号遺跡がある。

また砂丘のすぐ南側を流れる発寒川は、かつて追分川と呼ばれていたことが古い地図から判明した。



砂山の山頂



オタベリヶ丘



紅葉山の山頂



屯田墓地



屯田49号遺跡



了恵寺



花川南防風林



手稲1号遺跡